



スイレン(あわじ花山水)

わたしたちのまちの 景況レポート No. 30

2022 年 4～6 月期実績・2022 年 7～9 月期見通し

今日も 楽しい おつきあい



淡路信用金庫

調査概要

- 調査時期 : 2022 年 4～6 月期実績・2022 年 7～9 月期見通し
- 調査方法 : 当金庫の営業店職員による「聴取り」調査
- 調査企業数 : 671 社

製造業	151 社	卸売業	99 社	小売業	115 社
サービス業	116 社	建設業	141 社	不動産業	49 社
- 調査地区 : 当金庫事業地区（洲本市、淡路市、南あわじ市、明石市、神戸市、芦屋市、西宮市、
 尼崎市、加古郡稲美町、加古郡播磨町、加古川市、高砂市、三木市）
- 分析方法 : D. I.（「良い」「増加」「上昇」の回答割合－「悪い」「減少」「下降」の回答割合）
 ※不変部分を除き、「良い」「悪い」のどちらの力がどれだけ強いかを調べる方法

指標	内容	プラス	マイナス
業況	調査時点での回答企業の業況「良い」－「悪い」	良い＞悪い	良い＜悪い
売上額	前期（四半期）と比較した売上「増加」－「減少」	増加＞減少	増加＜減少
収益	前期（四半期）と比較した収益「増加」－「減少」	増加＞減少	増加＜減少
販売価格	前期（四半期）と比較した販売価格「上昇」－「下降」	上昇＞下降	上昇＜下降
仕入価格	前期（四半期）と比較した仕入価格「上昇」－「下降」	上昇＞下降	上昇＜下降
人手過不足	調査回答時点での人手「過剰」－「不足」	過剰＞不足	過剰＜不足
資金繰り	前期（四半期）と比較した資金繰り「楽」－「苦」	楽＞苦	楽＜苦

設備投資企業割合 設備投資実施の有無

例

人手不足▲50とは

人手	(1)過剰 (2)やや過剰 (3)適正 (4)やや不足 (5)不足
----	-----------------------------------

↓ 回答数を集計し、回答割合を算出

	(1)過剰	(2)やや過剰	(3)適正	(4)やや不足	(5)不足	合計
回答数	35	35	210	280	140	700
回答割合	5.0%	5.0%	30.0%	40.0%	20.0%	100.0%

人手不足 = 10 - 60 = ▲50

【問合せ先】

淡路信用金庫 業務部

担当：^{みのだ} 簗田、^{もみのき} 樺木、^{みくら} 三倉

TEL：0120-22-1020

業種別地区別天気図

地区 業種	全事業地区 (671先)			淡路地区 (387先)			神明地区 (284先)		
時期	2022年 1～3月 (前期)	2022年 4～6月 (今期)	2022年 7～9月 (見通し)	2022年 1～3月 (前期)	2022年 4～6月 (今期)	2022年 7～9月 (見通し)	2022年 1～3月 (前期)	2022年 4～6月 (今期)	2022年 7～9月 (見通し)
総合									
製造業									
卸売業									
小売業									
サービス業									
建設業									
不動産業									

好調← →低調

全業種



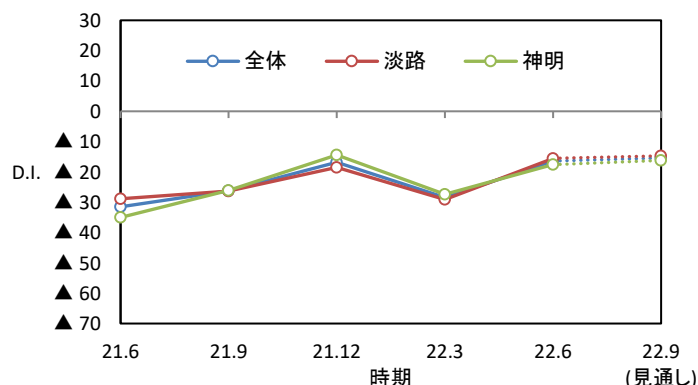
今期(2022年4～6月期)の業況判断D.I.は▲16.4となり、前期(2022年1～3月期)▲28.4に比べ12.0ポイント改善したが、コロナ禍前の水準までは回復していない。

項目別では、売上額は2.7(前期▲19.6)と22.3ポイント大幅改善、収益もマイナス幅が前期比17.0ポイント改善し▲10.3となった。販売価格では25.0(前期15.3)と9.7ポイント改善されるも、仕入価格が62.9(前期53.6)

と9.3ポイント上昇している。

人手不足感については▲21.6(前期▲21.8)、資金繰りについては▲6.6(前期▲6.7)とほぼ横這いとなった。来期(2022年7～9月期)の業況判断D.I.については▲15.4と1.0ポイントの改善を見込んでいる。他の項目でも、売上額・販売価格など小幅ながら悪化する見込みであり、コロナ禍収束傾向にあるが先行きは厳しい見通しである。

業況判断D.I.の推移(地区別)



	22年3月 (前期)	22年6月 (今期)	22年9月 (見通し)
業況	-28.4	-16.4	-15.4
売上額(前期比)	-19.6	2.7	0.1
収益(前期比)	-27.3	-10.3	-9.5
販売価格(前期比)	15.3	25.0	18.2
仕入価格(前期比)	53.6	62.9	45.3
人手過不足(過剰-不足)	-21.8	-21.6	-22.1
資金繰り(楽-苦)	-6.7	-6.6	-7.0
設備投資実施企業割合(%)	16.1	15.9	15.0

製造業



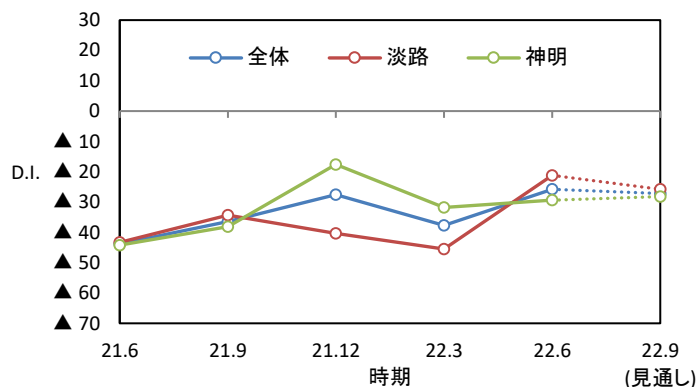
今期の業況判断 D. I. は▲25.8 (前期▲37.7) となり 11.9 ㊦マイナス幅が縮小となった。地区別の業況は、淡路地区▲21.2(前期▲45.5)と 24.3 ㊦の大幅改善、神明地区▲29.4(前期▲31.8)と 2.4 ㊦の改善となった。来期については業況が▲27.2 と 1.4 ㊦悪化の見通しで、売上額・収益など悪化する見込みとなっている。

お客様の声

コロナ禍の影響により業況は低調に推移している。引き続き SNS 活用により商品 P R を行い業績改善に努めている。ガスの高騰を受け製造費用が増加し、収益を圧迫することが懸念される。(淡路)

ロシアのウクライナ侵攻が原材料高に拍車をかけ、受注量は横這いであるも、利益確保に苦戦している。販売価格への転嫁を交渉するも、形勢上難しい状況にある。(神明)

業況判断 D. I. の推移 (地区別)



(D.I.)

	22年3月 (前期)	22年6月 (今期)	22年9月 (見通し)
業況	-37.7	-25.8	-27.2
売上額(前期比)	-29.1	-3.3	-12.6
収益(前期比)	-29.8	-12.6	-18.5
販売価格(前期比)	7.9	15.9	13.2
仕入価格(前期比)	60.9	63.6	47.7
人手過不足(過剰-不足)	-20.5	-15.2	-17.9
資金繰り(楽-苦)	-13.2	-11.3	-15.3
設備投資実施企業割合(%)	20.5	17.2	14.6

卸売業



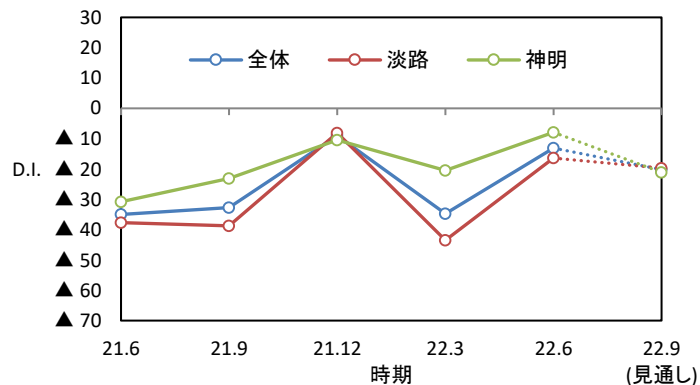
今期の業況判断 D. I. は▲13.1 (前期▲34.7) となり 21.6 ㊦改善となった。地区別の業況は、淡路地区▲16.4(前期▲43.5)と 27.1 ㊦の大幅改善、神明地区も▲7.9(前期▲20.5)と 12.6 ㊦の改善となった。来期は▲20.2 と 7.1 ㊦悪化の見通しとなり、依然として低水準にとどまる。また、売上額 6.1、収益▲6.1 と共に今期より悪化する予想となっている。

お客様の声

昨年の北海道産玉葱の不作が起因し、今年も玉葱の価格は高値で推移している。生産から販売までを手掛けているが、今後種苗、肥料、人件費等の値上がりで経費がかさみ黒字確保が難しい状況となっている。(淡路)

昨今の情勢を踏まえ、他社との競合は激化しているが、取引先の要望(取扱商品の充実・単価面での協力)に応えることで増収に繋がっている。他方、仕入コスト増、円安局面による利幅の縮小が問題となってきた。(神明)

業況判断 D. I. の推移 (地区別)



(D.I.)

	22年3月 (前期)	22年6月 (今期)	22年9月 (見通し)
業況	-34.7	-13.1	-20.2
売上額(前期比)	-16.8	25.3	6.1
収益(前期比)	-22.8	3.0	-6.1
販売価格(前期比)	35.6	49.5	16.2
仕入価格(前期比)	49.5	68.7	25.3
人手過不足(過剰-不足)	-5.9	-14.1	-13.1
資金繰り(楽-苦)	2.0	-6.1	-13.1
設備投資実施企業割合(%)	12.9	14.1	14.1

小売業



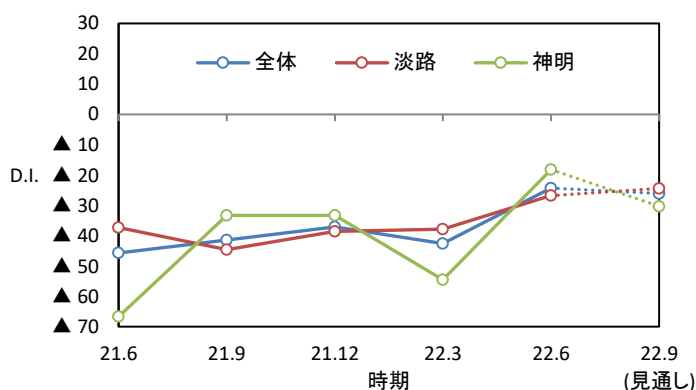
今期の業況判断 D. I. は▲24.3(前期▲42.6)となり18.3 ㊦改善となった。地区別では、淡路地区▲26.8(前期▲37.8)と11.0 ㊦改善、神明地区▲18.2(前期▲54.5)では36.3 ㊦の大幅な改善となった。来期の業況は、▲26.1と1.8 ㊦悪化し、厳しい状況が続く見込みであるが、売上額・収益などは改善する見通しである。

お客様の声

原油価格の高騰により販売数量は減少しているが、販売価格が高値で推移している為、売上高は前年並みに推移している。更なる原油価格の高騰が懸念される為、値動き等の動向に注視する必要がある。(淡路)

度重なる緊急事態宣言やまん延防止が解除され、客足は以前の水準には程遠いものの、回復傾向にある。しかしながら、原油・原材料の高騰が今後どのような影響を及ぼすのか把握できないため、値上げには慎重姿勢である。(神明)

業況判断 D. I. の推移 (地区別)



(D.I.)

	22年3月 (前期)	22年6月 (今期)	22年9月 (見通し)
業況	-42.6	-24.3	-26.1
売上額(前期比)	-35.7	-2.6	-1.7
収益(前期比)	-47.8	-21.7	-17.4
販売価格(前期比)	27.0	36.5	27.0
仕入価格(前期比)	48.7	59.1	43.5
人手過不足(過剰-不足)	-14.8	-10.4	-12.2
資金繰り(楽-苦)	-13.9	-14.8	-9.6
設備投資実施企業割合(%)	10.4	11.3	12.2

サービス業



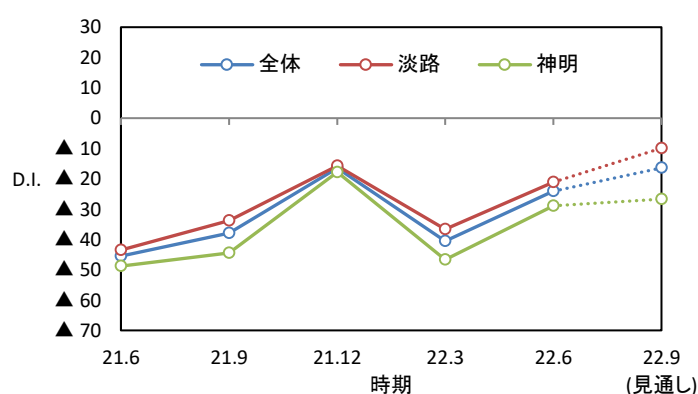
今期の業況判断 D. I. は▲24.1(前期▲40.5)となり16.4 ㊦改善となった。地区別の業況は、淡路地区▲21.1(前期▲36.6)、神明地区は▲28.9(前期▲46.7)と共に改善し、行動制限の緩和等の影響もあり、来期の業況も▲16.4と7.7 ㊦改善する見通しである。徐々に改善傾向にはあるが、コロナ禍以前に戻るにはまだまだ厳しい見通しである。

お客様の声

淡路島内の観光需要の高まりから週末を中心に稼働率は上昇している。新型コロナの感染状況が落ち着きを見せており、観光施策により、今後一層の稼働率上昇が期待される。(淡路)

コロナ禍の影響により売上減少していたが、ゴールデンウィークは外出制限もなく、好調であった。原油高騰に伴うガソリン価格の上昇もあり、先行きは不透明である。(神明)

業況判断 D. I. の推移 (地区別)



(D.I.)

	22年3月 (前期)	22年6月 (今期)	22年9月 (見通し)
業況	-40.5	-24.1	-16.4
売上額(前期比)	-29.3	1.7	2.6
収益(前期比)	-37.9	-0.9	-1.7
販売価格(前期比)	4.3	19.0	18.1
仕入価格(前期比)	42.2	58.6	50.9
人手過不足(過剰-不足)	-30.2	-29.3	-28.4
資金繰り(楽-苦)	-13.8	-8.6	-8.6
設備投資実施企業割合(%)	15.5	18.1	18.1

建設業

前期

今期

来期

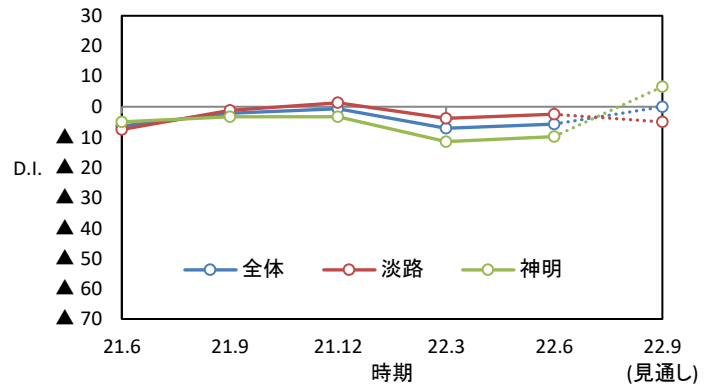
今期の業況判断 D.I. は▲5.7(前期▲7.1)と 1.4 ポイント改善となった。地区別の業況は、淡路地区は▲2.5(前期▲3.8)と 1.3 ポイント改善、神明地区は▲9.8(前期▲11.5)と 1.7 ポイント改善となった。来期は 0.0 と 5.7 ポイント改善する見通しである。人手過不足については▲40.4 と依然として慢性的な人手不足の状態が窺える。

お客様の声

長引くコロナ禍においても一定の売上水準を確保している。しかしながら、人手が不足しており、人材確保が課題である。また、資材の価格やエネルギーが高騰するが価格転嫁が進んでいないことから今後の対策が必要である。(淡路)

主に公共工事の需要が高く、リフォーム業も好調の模様である。一方で木材価格が高騰していることに加え、昨今のウクライナ情勢の悪化でさらに値上がりしていることで材料確保が課題である。(神明)

業況判断 D.I. の推移 (地区別)



(D.I.)

	22年3月 (前期)	22年6月 (今期)	22年9月 (見通し)
業況	-7.1	-5.7	0.0
売上額(前期比)	-0.7	-5.0	7.1
収益(前期比)	-14.9	-20.6	-6.4
販売価格(前期比)	9.2	17.0	21.3
仕入価格(前期比)	70.2	79.4	63.8
人手過不足(過剰-不足)	-39.7	-40.4	-40.4
資金繰り(楽-苦)	2.1	2.1	4.3
設備投資実施企業割合(%)	18.6	17.7	15.6

不動産業

前期

今期

来期

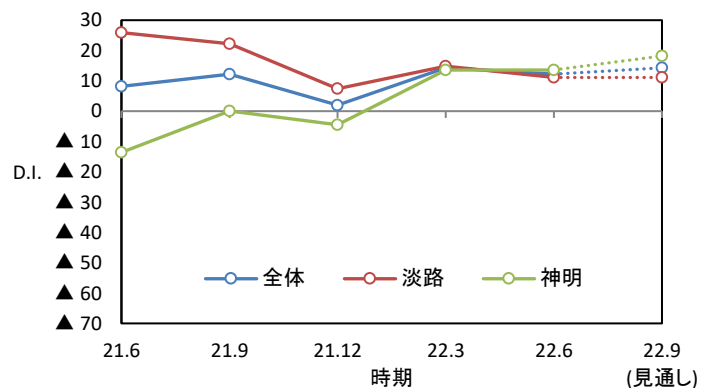
今期の業況判断 D.I. は 12.2(前期 14.3)と 2.1 ポイント悪化となった。地区別の業況は、淡路地区は 11.1(前期 14.8)と 3.7 ポイント悪化し、神明地区は 13.6(前期 13.6)と横這いである。淡路地区、神明地区共にプラスの水準を維持している。来期は 14.3 と 2.1 ポイント改善する見込みであるが、ほぼ横這いで推移している。

お客様の声

賃貸物件の築年数が長く修繕が必要な個所が増加しており、修繕を行い物価価値の維持を図ることで、入居率の向上に努めている。しかしながら、資材の高騰により修繕費の負担が増加している。(淡路)

物件が少なく、業者間での競争が激しく地価はやや上昇傾向にあり、商品物件の確保が課題となっている。資材・造成費も高騰しており大規模な開発を要する物件については、採算性を考慮しつつ、慎重に検討していく方針。(神明)

業況判断 D.I. の推移 (地区別)

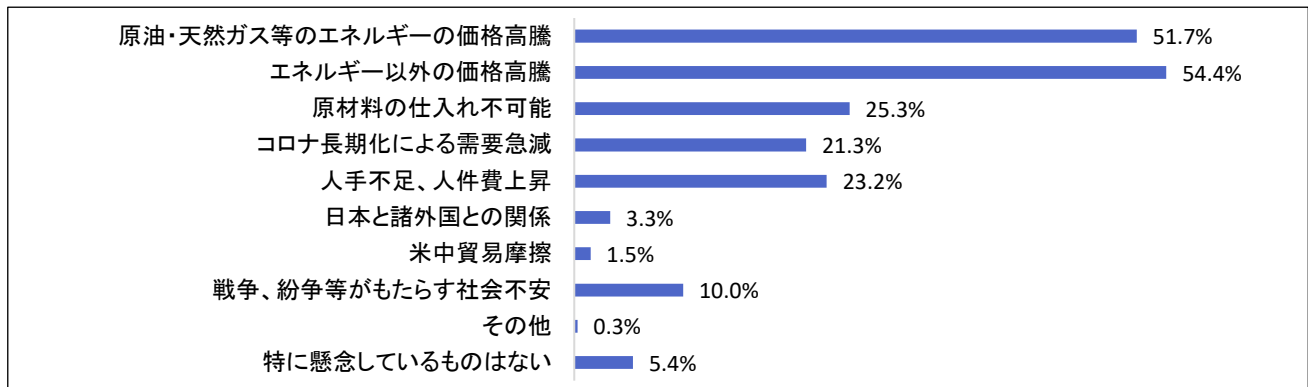


(D.I.)

	22年3月 (前期)	22年6月 (今期)	22年9月 (見通し)
業況	14.3	12.2	14.3
売上額(前期比)	10.2	12.2	6.1
収益(前期比)	8.2	4.1	2.0
販売価格(前期比)	12.2	14.3	8.2
仕入価格(前期比)	30.6	20.4	16.3
人手過不足(過剰-不足)	-4.1	-10.2	-8.2
資金繰り(楽-苦)	4.1	6.1	8.2

問1 最近の経済社会情勢について特に懸念していること

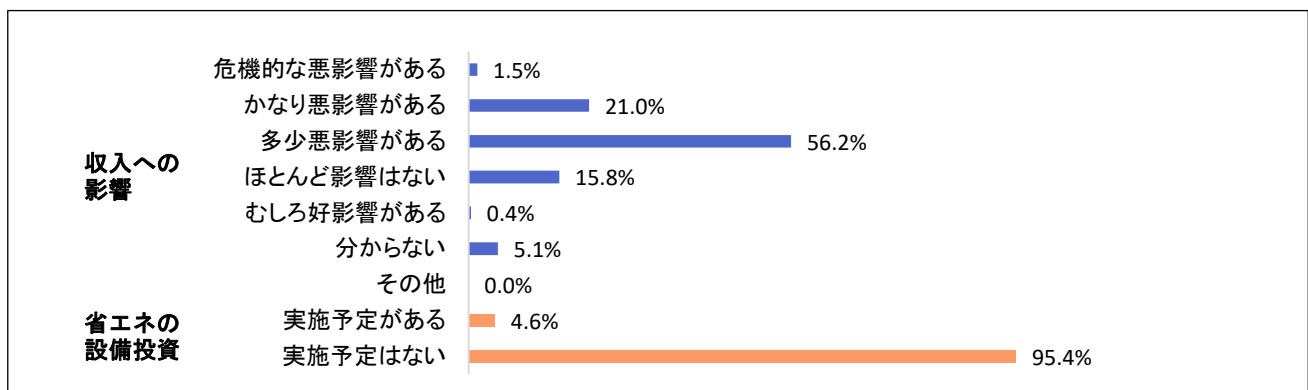
最近の経済社会情勢について特に懸念していることは、「エネルギー以外の価格高騰」が54.4%、「原油・天然ガス等のエネルギーの価格高騰」が51.7%と、原材料価格上昇に関する回答が多くを占めた。地区別でも、淡路地区は、「原油・天然ガス等のエネルギーの価格高騰」が最も多く59.9%、次いで「エネルギー以外の価格高騰」が53.7%と回答した。神明地区は、「エネルギー以外の価格高騰」が最も多く55.3%、次いで「原油・天然ガス等のエネルギーの価格高騰」が40.5%と回答した。業種別でも不動産業を除き原材料価格上昇に関する回答が多くなっている。



問2 最近のエネルギー価格の上昇による収益の影響と省エネ設備投資の実施予定の有無

最近エネルギー価格の上昇による収益への影響については、「危機的な悪影響がある」が1.5%、「かなり悪影響がある」が21.0%、「多少悪影響がある」が56.2%と、合計で78.7%の企業が悪影響があると回答した。地区別の差はそれほどなく、淡路地区・神明地区共に8割弱の企業が悪影響があると回答した。

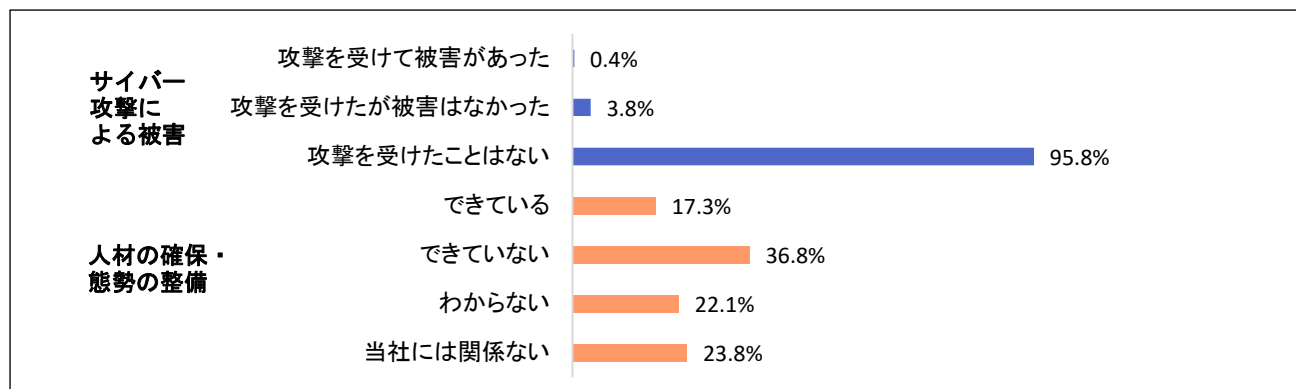
省エネ設備投資の実施予定については、「実施予定がある」は4.6%にとどまり、95.4%が「実施予定はない」と回答した。



問3 サイバー攻撃の被害とサイバーセキュリティのための人材確保や態勢整備

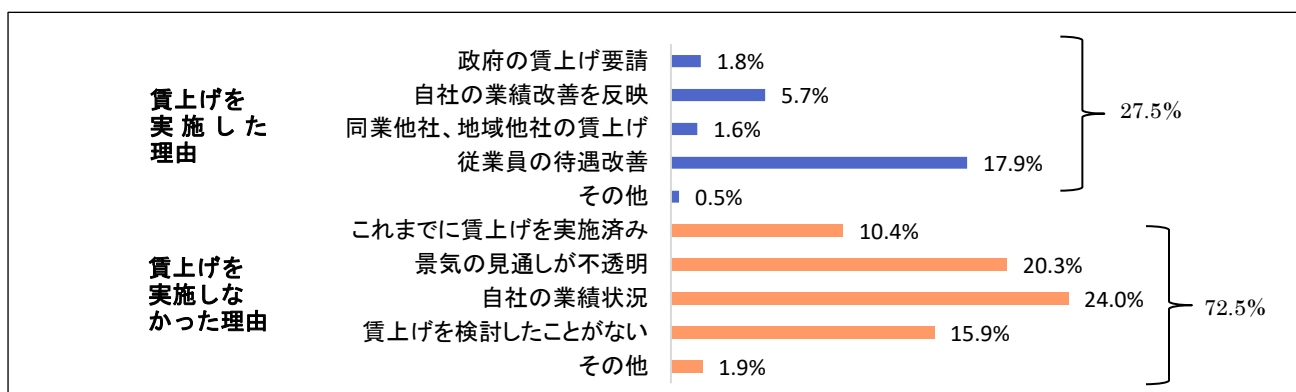
サイバー攻撃については、「攻撃を受けて被害があった」のが0.4%、「攻撃を受けたが被害はなかった」が3.8%となり、「攻撃を受けたことはない」が95.8%となった。地区別、業種別ともに9割以上の企業が「攻撃を受けたことはない」と回答した。

サイバーセキュリティ確保のための人材の確保・態勢の整備については、「できている」は17.3%にとどまった。対して、「できていない」が36.8%、「分からない」が22.1%、「当社には関係ない」が23.8%となった。



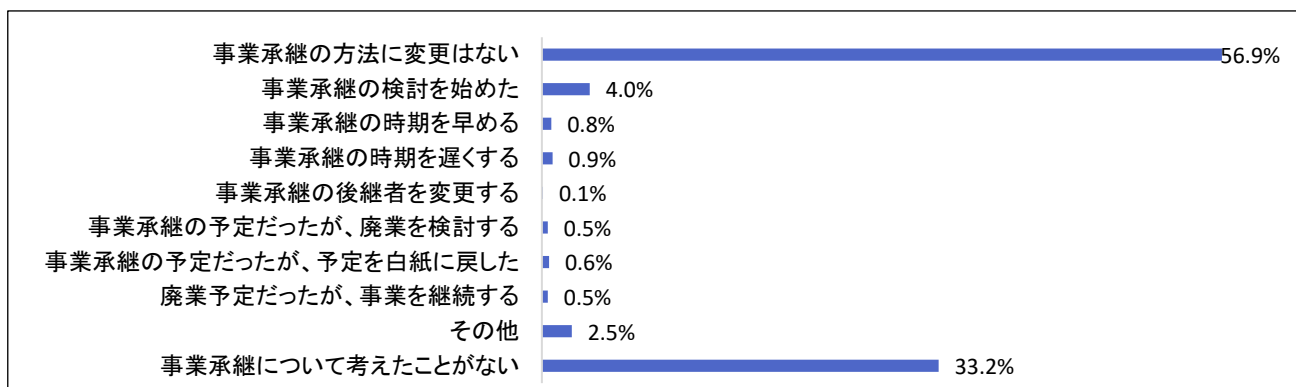
問4 今春、賃上げを実施したか否かとその理由

今春の賃上げについては、27.5%が実施した、72.5%が実施しなかったと回答した。賃上げした企業について、その理由は、「従業員の待遇改善」が17.9%と過半数を占めた。次に「自社の業績改善を反映」が5.7%となった。対して賃上げしなかった企業について、その理由は、「自社の業績状況（24.0%）」、「景気の見通しが不透明（20.3%）」が上位を占めた。地区別では、淡路地区は、29.3%が実施した、70.7%が実施しなかったと回答。神明地区は、25.0%が実施した、75.0%が実施しなかったと回答した。



問5 コロナ禍を受けての事業承継（M&Aを含む。）についての考え方の変化

コロナ禍を受けての事業承継（M&Aを含む。）の考え方については、「事業承継の方法に変更はない」が56.9%、「事業承継について考えたことがない」が33.2%となった。対して、「事業承継の検討を始めた」が4.0%、「事業承継の時期を早める」が0.8%と、少数ながらコロナ禍を受けて事業承継の方向性に变化があった企業もみられる。地区別では、淡路地区は「事業承継の方法に変更はない」が57.9%、「事業承継について考えたことがない」が31.7%。神明地区「事業承継の方法に変更はない」が55.6%、「事業承継について考えたことがない」が35.1%となった。



わたしたちのマチの元気企業 ②⑤

株式会社 HANA

【企業の沿革】

- 1949年 現代表取締役の祖父が服部旅館として開業
2002年 現代表取締役の父が西館増築とともに、
アワジ花ホテルとしてリブランドオープン
2019年 現代表取締役が（先代の長男）が事業承継
をするのに伴い会社を設立

【事業内容】

- ・アワジ花ホテル fuku（日本料理店）

当社は会社設立して3年ほどの若輩者ながら、若さとフットワークを強みに「とらわれない変化し続ける企業」をモットーにしております。

アワジ花ホテルはビジネスの素泊まりのお客様をはじめ、観光のお客様には淡路牛や3年とらふぐ・鰻など旬のものを提供し、地元のお客様には食事会や法要のお食事など、幅広いお客様をおもてなししております。

ホテル内にある「fuku」（日本料理店）はコース料理（コース11000円～サ10%別）のみで営業しており、淡路島の本物の食材を日々探求しライブ感あるリアルタイムで調理し提供しております。

目まぐるしく動く世界情勢の中、淡路島もここ数年で大きく変化していきましたが、これからも生まれ育った淡路島の食や観光について微力ながら発展に寄与できるようスタッフと共に頑張りたいです。

来期は、当社には今までにない客層をターゲットにした新規事業を控えておりチャレンジングな年にはなるとは思いますが、これからもとらわれず変化し続けていきたい。



アワジ花ホテル

〒656-0462

兵庫県南あわじ市市青木 110-13

TEL0799-42-0029



fuku

〒656-0462

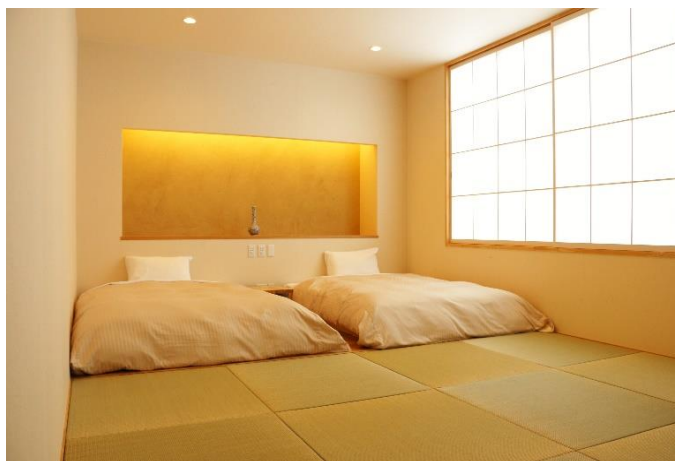
兵庫県南あわじ市市青木 110-13

アワジ花ホテル東館内

TEL0799-43-2001



fuku コース料理一部



アワジ花ホテル 客室一部

わたしたちのマチの元気企業 ②⑥



株式会社神戸タフ興産



弊社は、船舶床材・塗料専門メーカーとして、様々なお客様のご要望にお応えし多大なる信頼をいただいております。お問い合わせから納品までは、迅速かつ的確に作業を進めます。近年、船舶に於いて、床に対してのニーズがレベルアップし、床の機能のみならず装飾性デザイン性と多機能ニーズが要求されております。これらのユーザーニーズに満足される床を長年たゆまない研究開発、新素材の設計により最適の塗り床材として、これらの厳しい条件を克服し、皆様のご期待に応えてまいりました。

【製品紹介】

<生産開始から約 50 年の歴史>

船舶用甲板舗床材料の専門メーカーとして誕生し、昭和 35 年に生産を開始してから約 50 年。たゆみのない技術開発に、実績と信頼を築きつづけます。



・ハイテックス 騒音防止システムⅢ

総厚 20 mm の薄さで遮音効果 $R_w=45\text{dB}$ の効果が得られます。
薄い構造体なのでデッキハイトが確保しやすくなります。



・ハイテックス エコライフ SM 騒音防止システムⅠ

総厚 45.3 mm で遮音効果が $R_w=52\text{dB}$ という抜群の性能を発揮します。
施工が容易で確かな遮音効果が得られます。
多くの造船所様でご採用頂いております。



・ハイテックス #1009RⅡレベラー

細かいセメントや石膏等で強化されたセルフレベリング材で素材自体が
環境にやさしいデッキアンダーレイシステムです。

特徴

硬化が早く施工性抜群。優れた接着性、伸縮性。

企業名：株式会社神戸タフ興産

代表者：大山 雅彦

住所：神戸市西区白水 3 丁目 1 番 20 号

電話：078-974-1181

FAX：078-974-1148

設立年月日：昭和 35 年 8 月

資本金：10,000 千円

事業内容：船舶甲板舗床材製造業、舗床工事業

主取引先：三菱重工業(株)・常石ホールディングス・川重商事(株)他



(本 社)



(小野工場 小野市万勝寺町)